

湖北高校農業科みかん販売のサポート！

育てたミカン味わって



浜松湖北高の生徒販売 東区

浜松市北区の浜松湖北高は22日、農業科の生徒が育てた温州ミカンの販売会を同市東区のあるこども園で開いた。

農畜産業の担い手育成などを図る「JAバンク静岡アグリサポートプログラムの一環。地域とのつながりを深めたいという生徒の思いを受け、総合エネルギー会社エネジン（中区）が取引のある同園を紹介し、2年前から販売に訪れている。

農業科と商業科の生徒8人がミカンのおいしさをPRし、子どもの迎えに来た保護者らが次々と買い求めた。一緒に同校のミカンのジャムや皮を入れたドーナツも販売した。栽培を担当した農業科3年の筈見歩叶（浜松総局・山川侑哉）

さん(17)は「苦労があったので販売できたことに達成感がある。おいしいミカンで元気を届けたい」、商業科3年の高山唯斗さん(18)は「(ドーナツは)たくさん試作を重ねた。食べてもらえてうれしい」と笑顔を見せた。

ミカンを販売する生徒ら＝浜松市東区

高校生が地元企業を取材し、SNSで企業紹介する高校生授業をエネジンと共に毎年行っている中、「地域との繋がりをもっと深めながら、みかんを広めたい。」と相談を受け湖北高校の農業科の生徒が育てたみかんの販売会をサポート致しました。農畜産業の担い手育成などを図るJAバンク静岡アグリサポートプログラムの一環として、こども園で実際に生徒たちがみかんを販売。今後も地域に住む方達の架け橋となれるよう奮闘していきます。

